

## 第 25 回札幌市自立支援協議会概要

- 1 日時 平成 28 年 3 月 25 日（金）18 時 30 分～20 時 45 分
- 2 場所 札幌市役所本庁舎 12 階 1～3 号会議室
- 3 出席者
  - ・ 加藤 法子（（社福）楡の会 総合施設長、厚別区地域部会）
  - ・ 北川 聡子（（社福）麦の子会 総合施設長、子ども部会）
  - ・ 栗虫 宏明（（有）拓真ワークス 取締役事業部長、清田区地域部会）
  - ・ 小谷 晴子（（特非）札幌アシストセンターマザー理事長、東区地域部会）
  - ・ 重泉 敏聖（（特非）きなはれ 就業・生活応援プラザ とねっと センター長、就労支援推進部会）
  - ・ 杉田 誠（（社福）溪仁会 相談室こころ ていね 管理者、相談支援部会）
  - ・ 妻倉 ゆかり（（特非）障がい者就労支援の会 あかり家 管理者、中央区地域部会）
  - ・ 永井 順子（北星学園大学 社会福祉学部 准教授）
  - ・ 橋本 泰宏（（福）愛敬園 北愛館 主任、手稲区地域部会）
  - ・ 福吉 綾子（札幌市障がい者あんしん相談 専任相談員）
  - ・ 牧野 准子（障がい者によるまちづくりサポーター代表（障がい当事者講師の会 すぷりんぐ 代表））
  - ・ 森 祥子（五稜会病院 医療相談室主任）
  - ・ 渡邊 貢（（特非）自立生活支援センターさっぽろ 事務局、白石区地域部会）
  - ・ 和田 文明（合同会社 Forest サポートセンターれら 所長、北区地域部会）
  - ・ 山本 彩（札幌市自閉症・発達障害支援センター 地域支援マネジャー）
  - ・ 小熊 広道（相談室イコール、中村委員代理）
  - ・ 勝見 馥（ほっと相談センター、根本委員代理）
  - ・ 戸田 健一（障がい者相談支援センター夢民 地域づくりコーディネーター、オ  
ブザーバー）

#### 4 欠席委員

- ・ 黒田 澄雄 ((特非) ゆいまーる 理事長、西区地域部会)
- ・ 中村 直人 ((社福) 札幌あさひ会 障害者支援施設第2 よろこびの家 管理者、豊平区地域部会)
- ・ 根本 淑恵 ((社福) 札幌この実会 ほっと相談センター 相談支援業務責任者、南区地域部会)

#### 5 議事概要 別紙のとおり

#### 6 傍聴者 18名

## <議事概要>

### ● 報告・協議事項

#### 1 各部会の部会運営で工夫していることや困っていることの見意見交換

各部会の活動内容や部会運営で工夫していること等を資料に基づき、各部会長から報告あり。

##### ○ 妻倉委員

定例会の出席者数が 50 名から 60 名程度と一定になっていることから、次年度は他区の地域部会を見学し、参考にしていきたいと考えている。

##### ○ 和田委員

来年度から専門部会として相談支援部会を立ち上げることになり、詳しい体制等は年間活動報告書 101 ページからとなっているためご覧いただきたい。また、会報誌はホームページから見られる。今年度防災訓練に参加したことから次年度も積極的に参入し、避難行動要支援者名簿情報の提供に関してもお手伝いしたい。部会の周知をもっと地域に、と思うがなかなか広がらないのが課題。

##### ○ 小谷副会長

27 年度は子ども部会を設置できたのが大きな成果。毎月、同じ日に事務局会議と運営会議を開催し、部会活動を進めている。現在は、部会のあり方について検討している。なお、3 月 12 日に人材育成をテーマに開催した「ふくしまルシェ」では、昨年度に引き続き、岡田先生に介護動作を教えていただいた。300 人の参加者あり。東区内の関係者のつながりも多くなってきた。

##### ○ 渡邊委員

27 年度、力を入れたのは、部会参加者が何か持って帰れるように、オープンカンファレンスを開催。27 年度はスローガンを決めるのが遅くなったので、28 年度は早目に決めて、活動していきたい。

##### ○ 加藤委員

活動実績としては、学習会を中心に行ってきた。高齢者、子ども、障がい者の垣

根を低くし、地域で一番近い民生委員・児童委員をお呼びして、障がいのある子の支援について知っていただく内容等で開催した。課題としては、地域部会を厚別区の方々に知らせることができていないので、今後取り組んでいきたい。もう一つは、活動に使えるお金をどうするかも課題。次年度、事例検討を通しながら活動を見直していこうとしている。

○ 小熊氏（中村委員代理）

27年度活動実績として、3月に大茶話会を過去最高76名で開催。28年度の活動テーマを決めて、これまでの大茶話会やグループワークで顔の見える関係がかなり出来てきたので、何か新しいものを生み出せないかと考えている。活動資金確保のため、助成金に応募したので、今後の活動に活かしていきたい。

○ 栗虫委員

地域課題抽出からまちの課題整理プロジェクトに、今年度さらに2つ報告した。同時に、部会内でも事例検討を行っている。清田区地域精神保健福祉連絡協議会をこころのチームとして立ち上げたので、精神領域の課題についてはこころのチームで今後取り組んでいく予定。

○ 勝見氏（根本委員代理）

次年度は、事業所交流や会員の増加を行い、南区地域部会の再構築を進めていく。また、地域の皆様に地域部会を知っていただく必要がある。現在、3つの専門部会を設置しているが、新しいメンバーも入っていただくことを検討している。

○ 西区地域部会は欠席のため、紙面のみ

○ 橋本委員

現在の活動は2年目3年目を迎えている活動。区内のイベントでは地域部会の力を必要としてもらっている。委員がどんなことを考えているか確認し、部会には4つの養護学校の先生にも参加いただいていることもあり、地域密着という点では、小中学校の特別支援学級にも参加を促していこうと考えている。部会でのイベント

参加に際して、2日日程が天候の関係で1日開催となり、事業所として赤字を抱えてしまった。そのため、次年度から共同購入等で工夫していきたい。

○ 重泉委員

27年度は企業だけを対象にした研修を実施し、19社受講した。今まで就労継続B型を構成員の対象にしていなかったが、B型事業所から一般就労へとと言われてもいるので、次年度からはB型事業所も対象にしていく。また、運営委員15名が研修などを手弁当で手伝ってもらっており助かっている。広報誌はホームページに掲載しており、企業にも構成員になってもらえるよう呼びかけているが、運営委員会の議事録をホームページにアップできていないので、載せていきたい。今年度行った年次研修を、後ほどの議論になると思うが、自立支援協議会として実施していくことを提案したい。

○ 杉田委員

ガイドブック改訂と要綱改訂の2グループに分かれて、深い議論ができた。要綱改訂チームでは、そもそもの委託相談支援事業の役割について踏み込んだ議論になったので、来年度も引き続き議論をしていきたい

○ 北川委員

次年度は放課後等デイサービスに向けた研修を考えていきたい。ライフサイクルを見通して、共通理解のために、縦横連携ができるように、部会としてその役割を担っていきたい。

○ 永井会長

それぞれの部会の活動が活発化している中で、課題もある。3つの専門部会ではそれぞれの分野での事業所の質の底上げのための取組がされている印象。委員の方からのご意見やご質問、情報共有をお願いしたい。

○ 事務局（小野寺職員）

豊平区地域部会の助成金申請の結果を教えてください。また、前回、手稲区地域部

会でブログを開設予定という話があったが、状況はどうなっているか。

○ 小熊氏（中村委員代理）

助成金が出ることは決まった。ただし、使い道に制限があり、金額も多くはない。

10回目のフォーラムに向けてはまだまだ足りない。

○ 橋本委員

ブログは12月の障がい者週間に向けた活動や2月のイベントの活動などについて各委員・事業所の皆さんに発信した。周知不足で、皆さんに見ていただけているかは不透明だが、連絡連携は図られたと思うので、成果はあったと思う。また、手稲区で作成している自殺予防と啓発の動画に地域部会の若手職員が撮影に参加しているので、その辺りもブログで周知したい。

○ 小谷委員

地域部会で助成金を申請していないが、東区障害者自立支援ネットワークとして、昨年度は北海道から、今年度は札幌市から助成金をいただいた。

○ 永井会長

複数の部会でこころ部会が立ち上がっているようなので発足についてお聞きしたい。

○ 小熊氏（中村委員代理）

こころ部会発足の前から、精神保健福祉連絡協議会と合同で例会を年に1回実施している。医療との連携に力を入れていきたいと考えているし、病院からの参加が増えている。

○ 栗虫委員

精神連絡会のメンバーがもともと自立支援協議会の部会のメンバーと重複している。現時点では、研修を一緒に開催することを予定しているだけである。区内にある2つの精神科病院が参加してもらうことを考えている。

○ 永井会長

医療と福祉の連携は全体として必要なので、協議会としても連携が今後ますますの課題になると思う。

## 2 まちの課題整理プロジェクトチームの活動報告及び各課題の進捗報告

障がい福祉課小野寺職員から資料に基づき、さっぽろ障がい者プランの見直しについては、協議会の役割にプランの進捗管理もあることから、まちの課題整理プロジェクトというよりは全体会で検討すること、まちの課題整理プロジェクトについては、16カテゴリーのうち8つの方向性について検討中であるが、プロジェクトがある状態なので、整理が必要である旨説明を行う。

### ○ 小谷委員

もともと東区地域部会が課題を出したのは、区内の事業所での困り感からである。ヘルパー技術の向上は、東区としても取り組みたいと考えており、現在介護動作の研修を実施している。子どもさんを対象とする事業所を含めてたくさんの事業所ができていの中で、技術向上をと考えている。介護者の定着に向けて、札幌市全体の取組は一度協議会で研修ができると良い。東区は東区で取組を続けていきたい。

### ○ 北川委員

初めの年である平成25年度は、通学と学内の支援が課題であった。平成26年度は、教育と福祉がお互い何をしているのか知ることで、教育と福祉と医療の関係者でフォーラムを行った。27年度は、教育と医療と福祉の連携をもっと進めて、顔の見える連携システムということで、放課後等デイサービスの参観日を実施し、学校の先生を対象に見に来ていただいた。いい連携ができたし、子どもは先生が来たことを喜んでいて。時間帯や車を止める駐車場のこと等いろいろ難しいが、28年度は、できれば全市で大事な取組として続けていきたい。もう一つ、インクルーシブと合理的配慮についても取り組んでいきたい。

### ○ 妻倉委員

26年度取組案から、まずは自分たちでできることを実施している。一つは、「元気さ一ち」を使ってもらえるように、使い勝手を考える取組について、各部会の協力をお願いした。もう一つは、宅建協会の住まいに関するガイドブックを、障がい者にとっても分かりやすいよう作り変える提案をした。詳しく書いているが、文言が難しい内容になっていた。別紙資料の趣意書は宅建協会宛の文書である。別紙3ページ目以降は、分かりやすい版の案で、ルビ打ちも行い、宅建協会ですべて見ただけでいる。27年度、家主さんとの研修や勉強会等を企画していたが実施できなかった。次年度以降考えたい。自立支援協議会の協力で冊子にしたい。

○ 札幌市（小野寺職員）

重複障がいに関する課題検討については、3月16日に訪問看護協議会の役員会にお邪魔し、28年度は、年2回の研修に、重複障がいに関して学ぶことができる、協議会との研修を1回追加することの提案をいただいている。

○ 妻倉委員

住まいの課題の取組について、中央区で取り組んできたが、どういうメンバーで今後どう取り組んだらよいかで行き詰っている。ご意見をいただきたい。

○ 重泉委員

清田区の方で一回声がかかったきりで、その後声がかからないのでどうしたらといいのかと言っていた方がいる。

○ 妻倉委員

以前、精神障がい者の住まいのことをやっているということで、運営会議の勉強会にお呼びした。プロジェクトとしてではなく、中央区事務局で取り組んでおり、今後プロジェクトを立ち上げないといけないと思うが、どのようにしていったらよいか。中央区地域部会事務局でやり続けるのは大変だと思う。

○ 永井会長

プロジェクトに戻ってくるとプロジェクトが頭でっかちになるという問題もある。

ヘルパーの課題検討の体制も含めて、後で一緒に議論することとしたい。

○ 重泉委員

精神障害者地域移行プロジェクトについて、北海道の協議会の部会の議事録に札幌市に設立を提案といったことが書かれている。道との関係性が分からないので教えていただければ。まちの課題整理プロジェクトに出ていた話か。

○ 札幌市（小野寺職員）

年間活動報告書 96 ページに、1月26日の運営会議において、まちの課題整理プロにあがってきた地域移行についての協議の場をつくる提案があり、運営会議で検討し承認された。重泉委員は欠席されていた。今回の提案のところで、論議できればと考える。北海道の自立支援協議会の地域移行部会に大久保さん、本市から係長職が参加している。

○ 重泉委員

札幌市との関係はあるのか、札幌市のことを北海道に報告する義務はあるのか。なぜ北海道の協議会に市の協議会の報告がされたのかを、今日でなくてもいいので教えてほしい。

○ 山本委員

今のことに関連して、地域移行について、道と市が重なっているのは、もともと重なっているのか、道も含めた協議会の委員の重なりについても教えてほしい。

○ 永井会長

今の点も併せて報告したい。

○ 札幌市（小野寺職員）

前回のまちの課題整理プロジェクトで大きな議論になったことであるが、今は頭でっかちになったが、もともとのまちの課題整理プロジェクトは、課題の交通整理の役割だったはず。まちの課題整理プロジェクトの中には、一部実行に移っている課題もあるが、協議会の要綱に運営会議やまちの課題整理プロジェクトの規定が明

確にされていないという問題がある。「課題の解決に向けた流れ」は資料のとおりである。一時的な検討会の設置もあったりする。まちの課題整理プロジェクトから離すことをどうすれば良いのか、課題解決型の部会の設置も議論いただきたい。

○ 杉田委員

まちの課題整理プロジェクトのメンバーには入っているが、そもそも自立支援協議会が障がい分野だけのものではない。ヘルパーの問題は街中の問題であるし、専門学校なども取り組んでいること。移動は高齢者の問題でもある。今見渡せば、障がい分野の人しかいない。そろそろ自立支援協議会を障がい福祉だけの協議会にしないようにすべきであるが、この中でどうするかで収束してしまう。他の分野の人も入った方が、思いもよらない方向性が見えるのではないか。

○ 加藤委員

優先順位として、質を向上させないとならないものと、サービスの量が足りないものとは、別の議論をすべきである。制度で整っていないくても、インフォーマルなものでできるかどうかがあると思う。重心児の方の制度は足りていない。そういう整理の仕方をしたうえで、制度に訴えるのか、質を上げるのか。足りないものは行政にお願いするしかない。ある程度、年度計画で、何年間で調査などに取り組むのか、解決に向けた計画をたてないとならないのではないか。生活者として多様なので、大きいことから小さいことまである。何年間で取組んでいくことも必要なのではないかと思う。

○ 永井会長

計画的な推進は重要だと思うが、計画を立てるのが、まちの課題整理プロジェクトなのか、運営会議なのか、協議会全体なのか、他の分野の方に参加していただくにも、具体策が見えていない状況なのではないか。

○ 和田委員

先ほどの住まいのことは身近な課題で、どこの区でも同じ課題である。なぜ妻倉

委員だけ一生懸命やっているのかと思う。地域部会連絡会を使ってやれるのではないか。ヘルパーの技術向上課題だって東区だけのことじゃない。

○ 小谷委員

子ども部会の中で、学校や医療関係者の構成はどうなっているのか。

○ 北川委員

子ども部会自体、子どもに関わる方々で、さっぼ、教育委員会といった公務員だけでなく、民間も集まっている。もともと子ども部会でも上がっていた課題なので、一緒にやろうとなった。

○ 札幌市（小野寺職員）

まちの課題整理プロジェクトで、教育の話を聞こうとなって、教育委員会、親の会、学校の先生等、みんなで話し合っってメンバーを広げていった。

○ 北川委員

学校も放課後等デイサービスもお互いに行けない。学校の先生が行きたいと思ったときに、校長先生に通達があったら行きやすい。オール札幌で、障がい福祉課も教育委員会も一緒に動いていて、動きやすくて良かった。

○ 小谷委員

福祉だけでなく子ども全体に関わることはすごく大事。専門部会をたくさんつくればいいという問題ではないが、関係する者が集まってできれば良い。体制を作ることができたら良いが、それをどこがやるか。相談支援事業所も関わってくるだろう。流れの資料の中の「●●検討会設置」が大事だと思う。

○ 永井会長

今日結論まで行けなくてもご意見をいただいて、運営会議に持っていきたい。

○ 北川委員

住まいの課題は中央区だけでなく、次の動きに向けて考えられたらいいのでは。次の走り方を模索する時期である。

○ 妻倉委員

福祉以外の、住まいなら住まいに関する色々な方も入っていただきたい。地域部会連絡会をやっても、情報交換に終わっているのでは、うまく活用できたらと思うがいかがか。

○ 加藤委員

住まい部会があるところもある。厚別区には住まいチームがある。そういうところが集まる機会をつくれれば。

○ 永井会長

住まいとヘルパーは地域部会連絡会で検討すべきという意見や、全体会の構成委員についても意見があった。これらについて、早い時期の4月にでも運営会議を開催して検討することとしたいがよろしいか。まちの課題整理プロジェクトについては、その範囲についても確認しながら、実行部隊とならないよう心掛けていきたい。

3 年間活動報告書の提案

○ 永井会長

活動報告書を札幌市に提出させていただく。

○ 札幌市（石原企画調整担当課長）

取組にお礼申し上げたい。改めてゆっくり拝読させていただきたい。

4 自立支援協議会における研修体系の整理について

障がい福祉課小野寺職員から資料に基づき、説明を行う。

○ 重泉委員

就労部会では資料のような研修を実施した。これまでの反省点は、思いつきで研修をしていて、体系化できていなかったということにあり、体系的に研修をしたいと考えた。

就労系の事業所にいると、重度の障がいのある方が見えないので、6時間の実習とレポートを行った。逆に、重度の障がいの方に関わっていると、就労支援が分からないのではと思われる。僕も含めて、厚みのある支援員になりたいと思う。これをモデルに、全体でやりませんかという提案と、体系的な研修を作れないかという提案である。受け入れられなくても良いが、専門部会で集まって検討させていただき、運営会議に提案できればと考える。

○ 北川委員

子ども部会もいろいろ研修をしているが、思い付きというところもないわけではない。自立支援協議会の枠組でできればと考える。子ども部会は、子どもの研修を提案させていただいて検討していただきたい。

○ 杉田委員

自立支援協議会で行うことは必要だが、結局実行部隊はどうするか。民間の研修会社に委託するとか、研修費用を徴収するとか。自分たちの障がいのところだけでなく、それ以外のところにも投げていき、外にも知ってもらう流れを作っていけたら良いのではないか。

○ 勝見氏（根本委員代理）

障がいの分野で感じたのは研修体系が大変少ないこと。先日の管理者研修に参加したが、内容的にはお粗末だった。出てみて、2日間出る研修ではないと思った。そういう民間会社にお金を払うなら、協議会に予算を付けて、レベル1から3まで定期的に開催して質の底上げを行ってはどうか。質の担保が事業者任せられており、お金になれば良いのではという事業所があるのではないか。そういう事業者は、介護保険では淘汰されてきた。数年かかれば、我慢すれば良いということで良いのか。相談支援は、委託でも指定でもどんなケースも受けられなければならないと思う。札幌市として、全分野を含めてここまでの底上げはするというものがないといけないし、そのための予算は絶対必要である。

○ 山本委員

発達障害支援センター主催の研修は子どもだけでなく成人も対象としている。すべてのライフステージに連動させていきたいので、どのように表に移すかは今後相談させていただきたい。

○ 永井会長

専門部会の委員に何人か加えた形で、運営会議でチームを作る方向で検討させていただきたい。

5 まちづくりサポーターからの活動報告

○ 牧野委員

去年から第6期として、新しいメンバーでスタートしている。構成員は、肢体不自由2名、視覚障がい1名、聴覚障がい1名、精神障がい1名、発達障がい1名、知的障がい2名、難病2名の計10名。平成27年7月3日から平成29年4月30日までの任期となっている。障がいのある方への理解について、当事者目線で話し合っている。

4月から差別解消法が施行されるので、まちの課題整理プロジェクトでも同じような話が出ているが、課題の抽出と整理を行っている。現在は、公共交通機関と移動について検討をしている。障がい者の立場でどのように解決していったらよいか、困っていることだけで終わらないようにしている。情報アクセシビリティでは、字幕や案内表示のことがあるし、職員の接遇、車両の改善等も課題として挙げられている。エレベーターの位置を分かりやすく等ということもあり、意見集約ができれば、関係機関に意見を送ることまで進めていきたい。

○ 永井会長

移動のことは詳しく聞かせていただき、参考にさせていただきたい。まちの課題整理プロジェクトと連携して、分担すればできることがあると感じた。

6 発達障がい者支援関係機関連絡会議からの報告

山本委員から資料に基づき、説明があった。